

外郭団体経営健全化方針の概要と取り組み状況

【若宮大通駐車場株式会社】

経営健全化方針の記載内容	令和4年度の取り組み結果
・若宮大通駐車場(株)が現在抱えている借入金や施設の保有コストの問題などを解決し、事業の採算性を大きく向上させる。	・近隣の白川公園で3年ぶりに開催された木下大サーカス（3月27日～6月12日 63日間）において、当駐車場に駐車されてサーカスを観覧された方に半券持参で30分の回数券をサービス提供した結果、約3,300台のご利用を頂き、約560万円の現金売上を得た。 ・時間貸し利用拡大のために、会員制駐車場事前予約サービス（akippa）へ参画するとともに、カーシェアリングサービス（DeNA SONPO Mobility:Anycaエニカ）への参画を開始した。 ・四者連絡会議において、当社の経営状況などの認識を共有し、新型コロナウイルスの影響下での新たな経営改善方策について協議し、適切な返済額について合意することで、経営の安定化と借入金の返済に努めている。 ・四者連絡会議での確認を得て、毎年、着実に設備投資を行っており、本年度は、汚水排水ポンプの更新を行った。将来の資金積立の必要性があるため、今後の会社の収支見通しをもとに、積立余力を把握する。
・まちづくりとの連携や駐車場の新しい使い方の検討など時代の変化に伴い駐車場に対するニーズが大きく変化していることから、都心のにぎわい空間創出に向けてのフリンジ機能の強化や、人や物の移動の拠点機能といった新たな機能の付加など新しい駐車場のあり方を検討していく中で、若宮パークを今後の栄地区のまちづくりと連携した新しい駐車場として活用していく必要があると考えている。そのためには、市が主導的役割を發揮し、長期的に安定した事業継続が可能な新たな枠組みを構築する必要がある。	・都心部の都市計画駐車場の方向性と共に、若宮パークの位置付けや果たす役割、今後のあり方について検討を進め、若宮パークが長期的に安定した事業継続が可能な管理運営方法及び経営形態について検討した。
・施設としての若宮パークの存続を優先し、運営形態の大胆な転換も含めた抜本的解決策を検討し、市の主導的役割のもと、5年程度を目途として若宮パークを新たな姿へと再生させる。	・本市主導のもと、令和5年度以降の若宮パークの再生に向けての抜本的解決策について、若宮大通駐車場(株)をはじめとした関係者と協議を進めた。

団体名(若宮大通駐車場株式会社)

○法人の財務状況
(貸借対照表から)

(単位:千円)

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
資産総額	3,030,001	2,987,984	2,906,526	2,879,302	2,847,686
負債総額	2,145,499	2,122,982	2,090,864	2,072,907	2,043,393
純資産総額	884,501	865,002	815,662	806,395	804,292

(損益計算書から)

(単位:千円)

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
経常収益	220,647	199,160	156,326	182,134	192,216
経常費用	211,577	219,630	202,741	190,424	193,341
経常損益	9,070	▲ 20,469	▲ 46,416	▲ 8,290	▲ 1,126
経常外損益	▲ 1,162	0	0	0	0
当期純損益	4,547	▲ 19,499	▲ 49,340	▲ 9,267	▲ 2,103

○財政的リスクの状況

(単位:千円)

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
債務超過額	0	0	0	0	0
損失補償、債務保証及び 短期貸付けの合計額(A)	0	0	0	0	0
標準財政規模(B)	644,498,894	646,827,243	654,510,356	673,008,099	664,266,118
(A)／(B)	0	0	0	0	0